

(セミナー名称) 2019年度第3回山形県がん化学療法セミナー		
担当者氏名：富岡佳久		所属：大学院薬学研究科 がん化学療法薬学分野
内線： (795)6851	e-mail：	
1. 計画の名称		
2019年度第3回山形県がん化学療法セミナー		
2. 関連分野		
がん化学療法		
3. 実施報告		
<p>2019年7月28日大手門パルズにて、2019年度第3回がん化学療法セミナーとして支持療法をテーマに開催した。</p> <p>特別講演Ⅰとして、山形大学医学部附属病院 看護部 黄木千尋先生と同病院 薬剤部 志田敏宏先生からそれぞれ「がん化学療法における副作用対策について」「支持療法の薬剤経済」と題してご講演頂いた。また、特別講演Ⅱでは、山形大学医学部附属病院 腫瘍内科 病院講師 福井忠久先生から「複合免疫治療時代の有害事象対策について」と題してご講演頂いた。</p>		
4. 実施年月日・実施担当者・参加人数		
<p>2019年7月28日(日)</p> <p>東北大学 大学院薬学研究科 がん化学療法薬学分野 教授 富岡佳久</p> <p>52名が参加</p>		
5. 所要経費		
支出簿参照		
6. 成果		
<p>山形大学医学部附属病院 看護部 黄木千尋先生から「がん化学療法における副作用対策について」と題し、副作用の発現時期と合併症についてお話し頂いた。副作用の一つである下痢症状では、患者が水分の摂取により症状が悪化すると思い込み、水分摂取を制限する事があるため注意が必要とご説明頂き、また、脱毛症状は自身ががんであることを実感する症状であるため看護介入が必要であることをお話し頂いた。患者1人で受け止めることがないように多職種間で連携しながら介入していくことの重要性についてもご講演頂いた。山形大学医学部附属病院 薬剤部 志田敏宏先生には「支持療法の薬剤経済」と題し、年々医療費・薬剤費が増加していくなかで、支持療法でひとつである制吐剤について、その有効性を費用対効果の側面からご講演頂いた。薬剤経済評価の分析方法の解説後に、セロトニン受容体拮抗薬の費用対効果について詳細にご説明頂き、薬剤費用を踏まえた薬剤選択について学習する貴重な機会となった。</p> <p>山形大学医学部附属病院 腫瘍内科 病院講師 福井忠久先生から「複合免疫治療時代の有害事象対策について」と題し、免疫チェックポイント阻害剤 (ICI)の単独療法と併用療法での有害事象の発現時期やその特徴などについて臨床試験の結果から詳細に解説頂いた。ICIの種類による有害事象の特徴やその対処方法についてもご講演頂いた。化学療法による悪心・嘔吐対策として改訂ガイドラインやオランザピンによる制吐効果などに</p>		

ついてもポイントをわかりやすくご解説頂いた。

【当日の会場の様子など、写真を添付ください】

